

【3. 食料資源の状況（1）国内外における食料問題の現状】

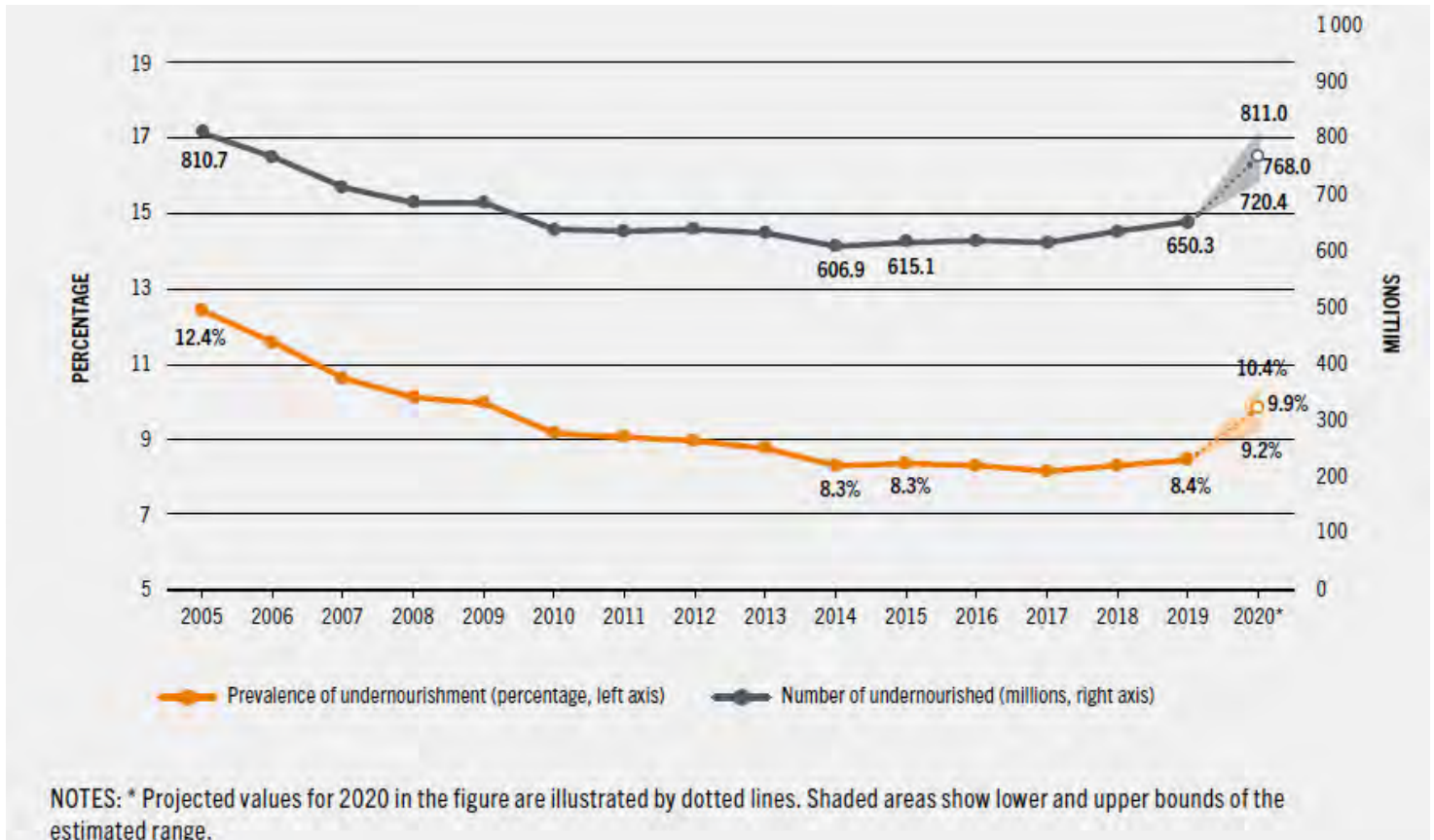
世界の食料事情について見ると、最新の推定値によると、現在、飢えに苦しむ人の数は、世界人口の8.4%に当たる6億5,000万人にのぼる（図37）。

国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」においても、飢餓の撲滅や小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料廃棄の半減等が目標として掲げられている（図38）。

各事業者からの回答等に基づき推計した結果、平成30年度の食品産業全体の食品廃棄物等の発生量約1,765万トンのうち、可食部の量は324万トン（食品ロスに相当する量）、不可食部の量は1,441万トンとなっている。

また、家庭系食品廃棄物の推計発生量766万トンのうち、可食部の量は推計276万トンとなっている（図39）。日本人の1人当たりの食品ロス量は1年で約47kgとなっており、これは日本人1人当たりが毎日お茶碗約一杯分のご飯を捨てていることに相当する量となる（図40）。

図37 世界の栄養不足人口



出典：FAO

図38 持続可能な開発のための2030 アジェンダ（抜粋）

目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

2.1 2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。

目標4. すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

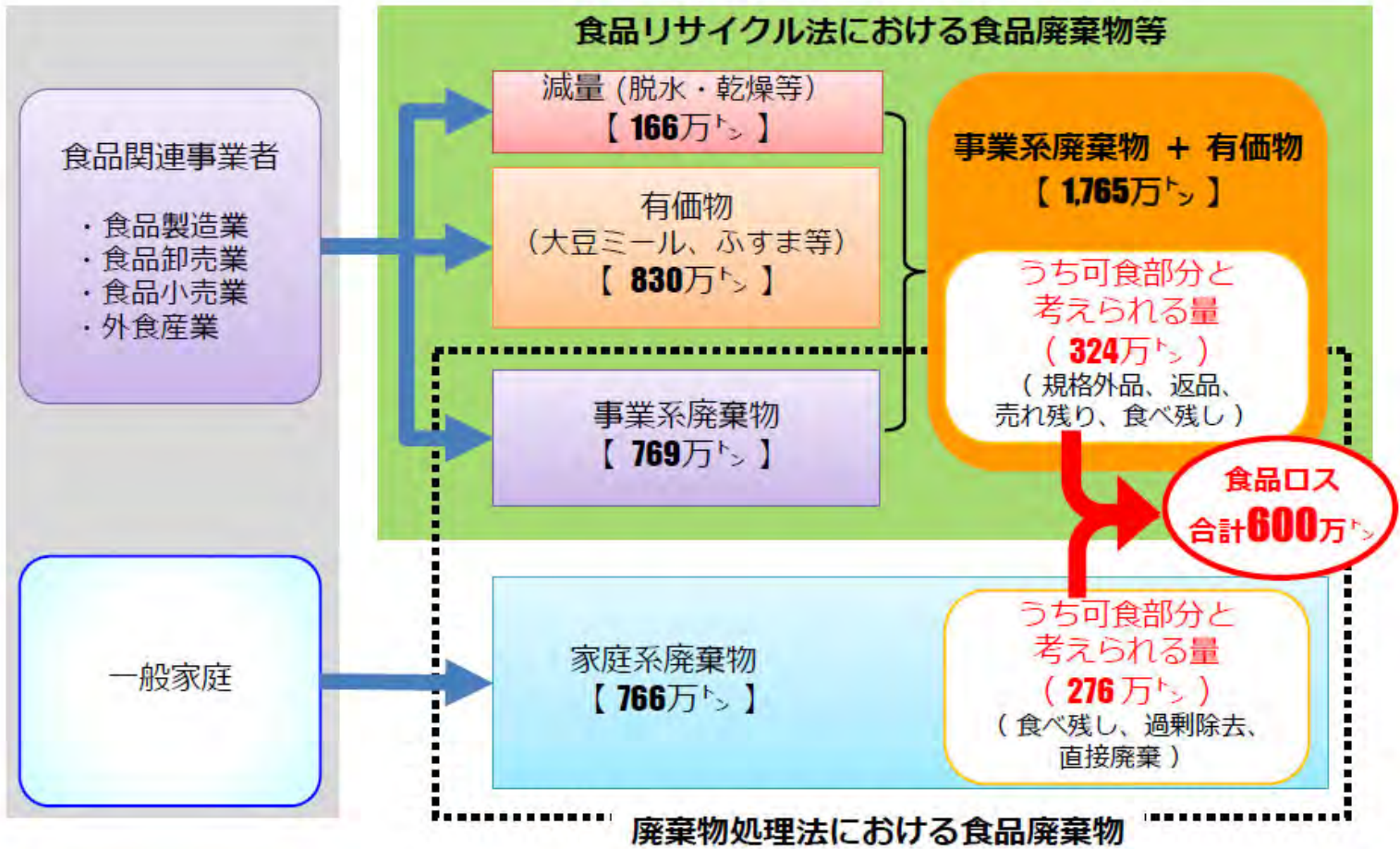
目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する

12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる。

資料：持続可能な開発のための2030アジェンダ（2015年9月国連サミットにて採択）

（注）国連文書A/RES/70/L.1を基に外務省で作成した仮訳。

図39 食品ロスの発生量



出典：農林水産省「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢(令和3年5月末時点版)」

図40 国民一人当たりの食品ロス量

国民1人当たり食品ロス量

1日 約130g

※ 茶碗約1杯のご飯の量に相当

年間 約47kg

※ 年間1人当たりの米の消費量 (約54kg) に近い量

資料：総務省 「人口推計 (平成30年10月1日) 平成30年度食料需給表」

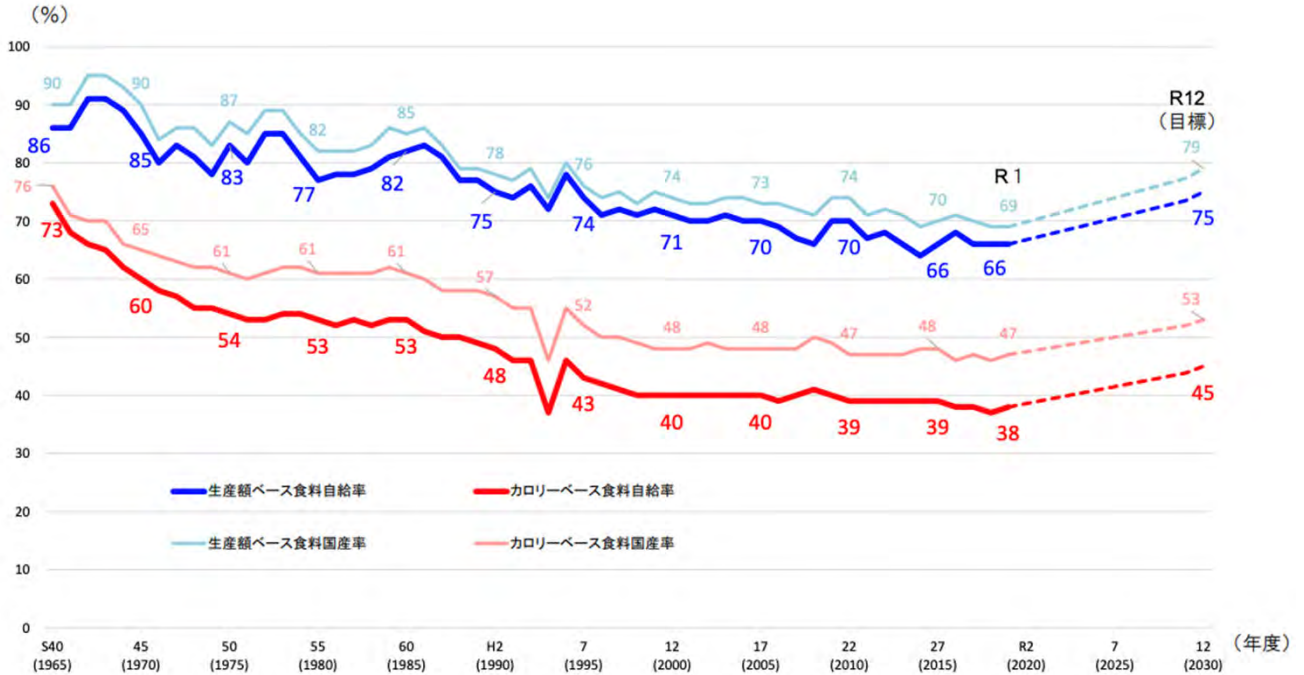
出典：農林水産省「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢(令和3年5月末時点版)」

【3. 食料資源の状況（2）国内の食料自給率及び食料自給力】

カロリーベースの食料自給率は1965（昭和40）年度の73%から大きく低下し、近年40%前後で推移している。また、生産額ベースの食料自給率も、低下傾向で推移し、直近は66%となっている。日本の食料自給率（カロリーベース）は、先進国（カナダ255%、オーストラリア233%、アメリカ131%、フランス130%）と比べると、最低の水準となっている（図41）。

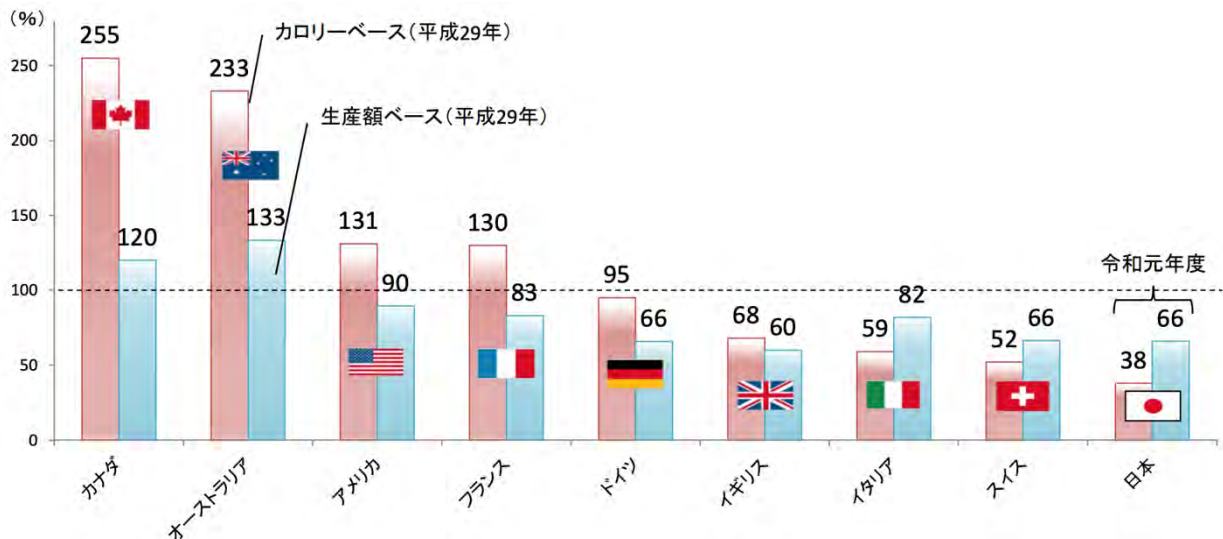
食料自給率が1997（平成9）年度以降40%前後（横ばい）で推移している中、食料自給力（日本の食料の潜在生産能力）は低下傾向にあり、将来の食料供給能力の低下が危惧される状況にある。2019（令和元）年度の食料自給力指標を見ると、現実の食生活とは大きく異なるいも類中心の作付けでは、推定エネルギー必要量等に達するものの、より現実に近い米・小麦中心の作付けでは、これらを大幅に下回る結果となっている（図42）。

図41 食料自給率の長期的推移



出典：農林水産省 「令和元年度食料自給率・食料自給力指標について」

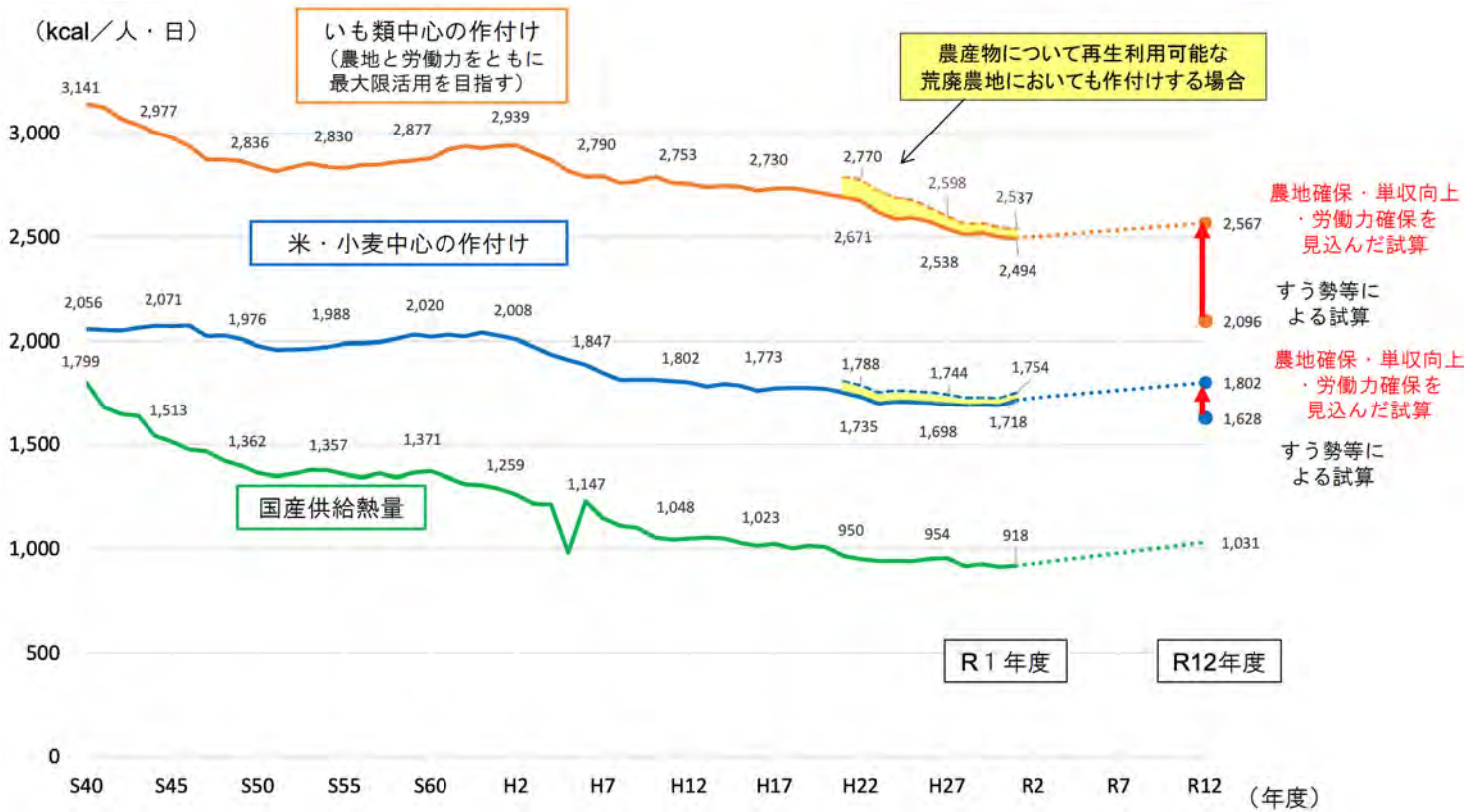
○国際比較



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO“Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。（アルコール類等は含まない）
 (注1) 数値は暦年（日本のみ年度）。スイス（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載。
 (注2) 畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

出典：農林水産省 「世界の食料自給率」

図42 食料自給力指標の推移



出典：農林水産省 「令和元年度食料自給率・食料自給力指標について」